

点検・評価書

(平成 22 年度事業対象)

◎教育委員の活動

◎教育部

◎指導部

◎文化部

平成23年度教育委員会点検・評価対象事業等一覧(平成22年度事業等)

所管部等	No.	事業名(教育委員名)	所管課	ページ
教育委員 の活動	1	運天 政徳		7
	2	伊禮 厚子		10
	3	仲宗根 加代子		16
	4	平良 寛吉		20
教育部	1	内間小学校校舎改築事業	総務課	22
	2	当山小学校プール改築事業	総務課	22
	3	仲西小学校屋内運動場改築事業	総務課	22
	4	内間小学校屋内運動場改築事業	総務課	23
	5	浦城幼稚園園舎改築事業	総務課	23
	6	当山幼稚園園舎改築事業	総務課	23
	7	内間幼稚園園舎改築事業	総務課	24
	8	放課後子ども教室推進事業	生涯学習振興課	24
	9	まなびフェスタ浦添事業	生涯学習振興課	25
	10	てだこ学園大学院委託事業	生涯学習振興課	25
	11	学校支援地域本部事業	生涯学習振興課	26
	12	てだこ市民大学事業	生涯学習振興課	26
	13	てだこウォーク実行委員会補助金事業	社会体育課	27
	14	学校体育施設開放事業	社会体育課	27
	15	浦添市温水プールまじゅんらんど管理・運営事業	社会体育課	28
	16	浦添市立体育施設管理・運営事業	社会体育課	28
	17	全国高等学校総合体育大会推進事業	高校総体推進室	29
	18	公民館運営事業	中央公民館	29
指導部	19	県外派遣事業	学務課	31
	20	幼稚園就園奨励事業	学務課	31
	21	育英会補助事業	学務課	31
	22	就学援助事業	学務課	32
	23	小中学校管理運営事業(学校警備委託事業)	学務課	32
	24	特別支援教育事業	学校教育課	33
	25	幼稚園教育事業	学校教育課	33
	26	学力向上対策事業	学校教育課	34
	27	外国語指導事業	学校教育課	35
	28	セカンドスクール事業	学校教育課	36
	29	教育相談事業	学校教育課	36
	30	小中学校水泳プール管理委託事業	学校教育課	37
	31	青少年センター運営事業	こども青少年課	38
	32	浦添市・中国泉州市小中学生交流事業	こども青少年課	40
	33	浦添市少年の船事業	こども青少年課	40
	34	研修講座事業	教育研究所	41
	35	教育相談事業	教育研究所	42
	36	教育振興事業「小学校」「中学校」コンピュータ等の整備関連事業	教育研究所	42
	37	小学校校内LAN環境整備事業(再編交付金)(教育研究所)	教育研究所	43
文化部	38	文化振興事業	文化課	44
	39	てだこホール管理運営事業	文化課	45
	40	史跡浦添城跡・登録記念物保存修理事業	文化課	45
	41	浦添市内遺跡発掘調査事業	文化課	46
	42	うらおそい地域文化財保全整備事業	文化課	46
	43	市立図書館運営等事業	図書館	47
	44	美術館運営等事業	美術館	49

●教育委員長 運天政徳

1、教育委員会の会議

成果 各委員案件ごとに意見を出し、合議制の中で議決している。事務局の報告や情報収集も的を得ており、議決や情報交換等で活かされている。

課題

意見、感想

議事で付議事件なしの場合会議開催を取りやめたらどうか。
現在は勿論情報交換、意見交換等に振り向けられていて意義は解るのだが。
何らかの勉強会に振り向けるのも一つの方法ですが。

議事案件の資料が事前に配られる場合は特に問題はないが、当日配られると良否の即判断に二の足を踏む時がある。メール等を利用し事前の資料を送る工夫がほしい。

2、その他の会議、研修会への参加

成果 他市町村教育委員との情報交換は数少ない機会の中の会議であり、懇親会も含めて成果は大きい。

課題 他市町村の委員会と比較して、浦添市の制度や運営等が進んでいる部分が多いと思うが時に認識不足で良さを見落としてしまう場合がある。

地域差もあり共通テーマでかみ合わない部分はあるが、突っ込んだ意見交換もしてみたい。

意見、感想

市町村教育委員会連合会の分科会は各2グループに分けて議論することを提案し採用されたがやはり2グループでも人数が多い。運営進行の仕方を工夫する必要がある。

那覇地区教育委員会連合会の開催場所を久米島や南北大東島でも開催してはどうかという意見もあるが実現には至ってない。予算の都合もあろうが自腹でも行って見たい思いである。

3、学校訪問

成果 学校の外見、そのままの姿を見ることが出来る。訪問時の児童生徒のあいさつや笑顔、清掃等で学校の雰囲気、環境が大方知れる。
意見交換では前もってのテーマで要領良く聞くことが出来る
訪問時に同時に行われることのある授業参観はいいと思う。

課題 授業参観日の保護者の数は学校によりバラツキがある。中学校は保護者が少なくなる。進路問題を含め保護者はもっと関心を持ち、学校はもっと参加を呼び掛ける必要があるのでは。

学力向上対策実践発表会は先生方をはじめ、保護者、自治会、関係団体へもっと呼び掛けるべきである。それが学力向上への関心を高める早道であると感じる。

意見、感想

学校訪問をして思うことは学校正門付近の美化活動に力を入れてほしい。正門は児童生徒の心に無意識に希望を与え、勇気を与え、安心を与え、やる気を与える場所だから。

4、学校行事への参加

成果 全体的に各行事の運営進行に関してはほぼ同じでしょうが、各学校特色もあり、たのしく感動的な場面もある。教育委員として学校への応援団意識を持ちうれしい限りであり、もっと激励したくなる。

課題 運動会はともかく入学式、卒業式の保護者の参加は思ったほど少ない。めでたい祝いの席であり、我が子の晴れ姿をしかと見てほしい思いにかられる。

意見、感想

運動会で思うこと。全員参加で演武や演舞、リレー競争をすることは大いに結構ですが、社会と言うのは競争にさらされている。もう少し、競争意識をそそるような競技も取り入れてほしい気がする。

入学式、卒業式での国歌の斉唱を会場全員で声を出して歌えるようになるといいのだが。

5、各種行事、大会等への参加

成果 多催な行事があり、どれを取っても教育委員として参加をし、激励のし甲斐があった。

継続事業とは別に一元事業として自治会長会との教育懇談会があった。その中でC G G運動についての意見が数多くあった。金銭の負担が自治会にかかる等悩みの側面も聴けたのはよかったと思う。さらに地域自治会との連携こそが重要だと改めて認識した。

課題 学力向上のための方策は多々あると思うが、生活規範の確立はベースであるとする。提言と実践のためには浦添市青少年市民会議や浦添市PTA連合会との連携が必要であり、情報交換会を年一回は持つ必要があるのではないか。

意見、感想

6、その他意見、感想

22年度『浦添市の教育』という冊子がある。これは基本的な推進事業を示し、新規事業等を列記したものである。

その中で青少年の健全育成の面で「居酒屋に子どもたちを連れていかない運動」を推進すると新しく謳っているが、それをどのように実践に移したのか気になるものである。せっかくの素晴らしい提案だから我われ教育委員は実践する方法を論議する必要がある。次年度への課題としたい。

教育委員は非常勤であり、限られた時間内での活動であるが、現在参加はしていないが委員の活動に関連した会議や行事等が多々あると思う。従来の枠を越えた行事案内を行い、出席の何如は各委員の裁量に任せてもいいのではないか。事務局でわかる情報は流してほしいと思う。予算を組む必要はない。

この点検評価も今回で3回目であり、思考錯誤の中での意見、感想であり2～3年後に総括した方がいい。

以上

1, 教育委員会議について

感 想

- ・月2回の定例会がきちんと開催された
- ・定例会においては、教育長の活動報告が懇切、丁寧になされていた。
- ・議事について、事務局から詳しい説明や資料が準備なされ、話し合いを深めることができた。
- ・緊急の議事が発生したときには、臨時会が開催され即、対応が図られた。
- ・議事の通知について、事前になされていた。

要 望

- ・重要議事や、資料添付の多い議事については、読んで理解を深める必要があるので、1週間前までに発送してほしい。
- ・事業内容についてより理解を深めるため、教育委員会各部の事業説明等、情報交換学習会の場を定例会後（4月、5月頃）に設定してほしい

2. その他の会議、研修会への参加について

- 沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会
(会場・・・てだこホール)

成 果

- ・会場のてだこホールは、駐車場も広く、分科会に使用する研修室も会場周辺にあり、移動がスムーズに行われ、研修時間が有効に活用できた。
- ・各分科会を2つのグループに分けて進めたので、多くの市町村の発表する場があり、研修内容が充実していた。
- ・第2分科2グループ(学力向上につながる学校・家庭の連携の在り方)に参加し、学校では「わかる授業の構築」、家庭では「基本的な生活習慣の確立」、地域では「挨拶など愛の声かけ運動」等に連携して取り組んでいる事例の発表があり、参考になった。

課 題

第2分科会2グループにおいては、各市町村が共通する課題として下の事項が掲げられた。

- ・学習ボランティアをどう確保するか。
- ・地域人材は豊富にあるが、活用がうまく図られていない。
- ・学校と家庭・地域との連携を深めるためには、教師の地域行事等への積極的な参加が必要である。
- ・家庭学習の習慣化を図るためには、教師の宿題の与え方の工夫が必要

感 想

児童生徒の学力向上は、沖縄県、浦添市の学校教育の重要課題の一つであります。その対応策としては、学校を中心として家庭、地域が一体となって、自分たちは何ができるか、何をしたらよいかを考え、実践し、本市の教育目標で掲げられている个性的で創造性あふれる幼児児童生徒の育成に関わることが必要だと感じました。

- 沖縄県市町村教育委員研修会(那覇市民会館)に参加して

教育講演を聞いて、教育委員の役割、中国と琉球との関わりなど視野を広めることができた。

- 全県教育委員研修会(県教育庁主催)に参加して

県の教育施策への取り組み、成果、課題等について掌握できた。特に児童生徒の知・徳・体に関わる学力向上、生徒指導、健やかな体等の育成に対する実態説明があり、学校教育の課題について理解を深めることができた。また、新学習指導要領全面実施に向けて(小学校外国語活動)教育委員会、学校に求められる留意点について確認できた。

- 那覇地区市町村教育連合会の会議に参加して

市町村教育委員の交流・親睦を図る良い機会、今後は、お互いの現状報告並びに共通するテーマを設定し、研修を深める工夫が必要。

3 学校訪問について

市内16校の学校訪問、校区学力向上対策実践報告会、指定研究発表会等の学校訪問を通して、幼児児童生徒の様子、学校の現状、課題等について理解を深めることができた。

□ 学校訪問（市内16校）

内容・・・授業参観、不登校・問題行動の実態と対策等について

感 想

・きめ細かな指導で児童生徒の興味・関心を高める授業の工夫が見られた。（地域教材、電子黒板やパワーポイント等の視聴覚機器の活用、具体物操作など取り入れた授業実践）

・幼稚園、小学校では、清掃がゆきとどき、花も咲き乱れ、環境整備がきちんとされていた。また、学習を喚起する掲示物にも学校や担任の工夫があった。全体的に教室、校舎、校庭等の環境教育の充実が図られており、すがすがしい気持ちになった。

・各学校においては、不登校・問題行動等の実態把握を踏まえ保護者や関係機関と連携しながら真剣に取り組んでいる。全職員の支援体制強化が生徒指導の充実につながっていることを確認することができた。

意 見

・市内16校の内、15校に不登校児童生徒がおり、年々その数が増加傾向にあり、原因も多様化している。早期発見、早期対応が必要と感じた。

・不登校児童生徒には、多くの方々（学校職員、カウンセラー、心の教室の相談員、巡回相談員等）がその対策、対応に関わっている。特に効果のあった学校の措置としては、□家庭訪問、□電話、迎え、□保護者との協力等と言われている。関係機関との連携を密にし、一人でも多くの児童生徒が復帰できるよう継続的な取り組みが必要と感じた。教育委員としてもサポートしていきたい。

・学業不振が不登校の原因にもなっている。特に小学校低学年の学習に遅れがちな子には、家庭との協力や学習支援ボランティアの活用を図り基礎・基本事項の定着を図る必要がある。

□ 学力向上対策実践報告会

感 想

・各校区の特色を生かした実践報告会であった。

・会場校では、全学年の授業実践があり、児童生徒の「授業への参加態度」、教師の「授業改善の工夫」に触れることができた。

要 望

・学対実践報告会は、学校、家庭、地域が連携して幼児児童生徒の学力向上を図るのがねらいですが、保護者や地域の方々の参加が少ない。授業参観とセットするなど、工夫が必要と思った。

□ 指定研究発表会

研修は、教師の力量を高める大切な場である。指定研究校を受け、2年～3年、全職員で研究を深めてきたすばらしい成果が研究発表会の公開授業や実践報告書にまとめられていた。現場の先生方の研究意欲の高まりを感じた。頑張ってください。

感 想

・幼小連携（牧港小）・・・幼稚園生と2年生合同の生活科「おもちゃまつり」、体育館いっぱいいろいろなあそびが準備され、幼児の生き生きと遊ぶ姿、幼児に優しく遊び方を教えている2年生のたくましさが印象的でした。幼児期の発達を踏まえた総合的な指導で幼児期から児童期への発達を促す工夫が見られた実践発表でした。

・進路指導・県指定（浦添中）、キャリア教育（神森中）・・・自らの生き方を考え、主体的に進路を選択する力を育てるには学校の教育活動全体を通じて進路指導を行うのが重要と言われている。両校の公開授業においては、各教科等における本研究とのかかわりが明確に示された指導案で人間形成能力、情報活用能力、意志決定能力、将来設計能力などを育成するための授業実践が図られており、進路指導やキャリア教育に対する理解を深めることができた。

・幼稚園教育（港川幼稚園）・・・「しなやかな心と体をはぐくむための援助」をテーマに掲げた実践報告会を参観し、園児や先生方からたくさんの感動をもらいました。幼児期に運動能力を身につけて育てることがその子の青年期のすべての能力の基礎づくりに繋がると言われていますが、港川幼稚園児は、一人一人が体を動かす楽しさや喜びを味わっており、遊びの達人でした。全体的に運動能力の高さを感じました。また、幼児の主体的活動を援助をしている教師の工夫があり、すばらしいと実践報告会でした。

意 見

・公開授業、研究発表会に多くの教師、保護者が参加できるよう工夫が必要。

4, 学校行事への参加

各種の学校行事を通して、幼児児童生徒の成長を実感する場となっています。

□ 儀式的行事（入園・入学式、卒園。卒業式）

感 想

- ・園児・児童生徒のきらきら輝く瞳、保護者の喜び、教師の愛情を感じる儀式が挙行されており、参加する度に各学校の特色ある取り組みに感動しています。
- ・各学年のメッセージ、入学式・卒業式テーマ、色とりどりの花の装飾等、儀式的雰囲気高める会場設営の工夫があった。
- ・児童生徒全員が式服で参加しており、厳かや中で式が進行されていた。
- ・壇上で、堂々と自分の夢や希望を語っている卒業生、六カ年間の成長とたくましさを感じた。（宮城小学校の卒業式に参加して）
- ・九カ年皆出席賞の賞状授与を教育委員会代表者が行った。学校長の配慮ではじめての試みだったようですが、義務教育終了までの九カ年間、皆出席をした生徒を激励することは、教育委員会としても是非、必要と思った。（神森中卒業式に参加して）

要 望

- ・案内状や式次第等で来賓者の名前の間違いが見られることがあった。各学校への連絡を密にしてほしい。

□ 体育的行事（運動会、体育祭）

感 想

- ・運動会、体育祭は、子どもたち一人一人が主役であり、幼児児童生徒のたくましい成長を目の当たりにできる行事。
- ・小学校5、6年生の係の活躍、中学生の自主的行事運営など団結、協力して、すごい力を発揮し、運動会を盛り上げていることに感動しました。
- ・会場いっぱいの観覧者がおり、学校教育を地域の人々に理解してもらい、地域連携を図るいい機会であると思いました。

意 見

- ・観覧マナーない大人がいることに心を痛めています。学校便りや当日の放送を通して意識を高めることも必要と思いました。（たばこの吸い殻、ゴミの後始末等）

5, 各種行事。大会への参加の感想

教育委員として、各行事に参加して感じたことは、どの行事も綿密な計画の基に実施され、進行、運営がスムーズであった。担当の方々に感謝しています。

□ てだこ市民大学第1回入学式

年齢に関係なく、学ぶ意欲のある入学生の希望に満ちた顔は、すてきでした。本市の人材育成の場である市民大学に期待します。

□ 夜間街頭指導

港川中校区の夜間街頭指導に参加して、情報交換会では、カーミジで泳いでいる児童生徒の安全指導の徹底について話し合われました。

□ 青少年を健やかに育てる浦添市民総決起大会

参加者が多かった。市民の意識を高め、青少年を守る結束の場になった大会だった。

□ てだこまつり

多くの市民が祭りに参加し、浦添市民の情熱とパワーを感じた。

企画、演出もすばらしく2日間楽しみました。

□ 市こども会まつり

演技や演出にいろいろな工夫があり見応えがあった。舞台体験は、子どもの自信にもつながり、すべてのことに活かされていくと思った。

□ 消防出初め式

消防団員のきびきびとした態度、訓練に感動した。

□ 成人式

大人としての自覚が見られ、式には静かに参加できていた。

□ 教育委員会表彰式

本市の教育の日に、個人5、団体1の市民の表彰、善行児童生徒の個人53、団体22の表彰をして、激励することができた。表彰者の益々の活躍を期待します。

教育委員としての意見

・ 青少年の問題行動で一番多いのは、深夜徘徊と言われています。最近では、万引き、飲酒等も増加する傾向にあるようです。月1回実施されている夜間街頭がマンネリ化し、形式的に実施されている感を受けています。情報交換等を活発にし、地域の子たちの問題を真剣に話し合う場にする工夫が必要ではないでしょうか。

教育委員会点検・評価書

平成23年8月 仲宗根 加代子

1、教育委員会の会議

本市の教育行政における重要事項を決定する会議。原則として月2回開催される。
平成22年度は定例会が 回、臨時会が 回の合わせて 回の会議が開催され、
議案 件、選挙 件、報告 件であった。 ※後掲資料参照

【感想】

- ◎半年間を振り返って思ったことは、教育委員の役割というもの、自分自身ではまだ明確化されていない。
- ◎教育委員(個人)としての意見や、提案を発言する場所やタイミングがわからないので、自分の提案があっても何も言えない。
- ◎会議の事前連絡や、会議資料が早目に欲しい。事前把握ができないので、会議の進行が全体的に遅い場合がある。
- ◎浦添市の教育行政について、より深く理解できたし、改めて教育の大切さを認識することができた。
正直に言って、教育委員になるまでは教育に関して、行政がここまで深く、広く取り組んでいるとは理解していませんでした。

2、その他の会議、研修会への参加

沖縄県市町村教育委員会連合会主催の会議及び研修会、沖縄県教育委員会主催の研修会等へ参加する。平成22年度は下記の会議、研修会に参加した。

- ①沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会
- ②沖縄県市町村教育委員会研修会(市町村教育委員会連合会主催)
- ③教育委員研修会(県教育長主催)
- ④那覇地区市町村教育委員会連合会の会議

【感想】

②に関しては、他市町村の教育委員と交流を深め、意見や情報交換等を行うことができたし、市町村の実情がわかり参考になることが多くあった。
また改めて浦添市の教育行政の素晴らしさを認識できた。

- ◎その他の会議、研修会に参加したがまだ半年ということもあり、その趣旨や、内容を理解するまでには至らなかった。

3、学校訪問

毎年テーマを決めて小・中学校全16校を訪問する。又、学力向上対策実践発表会等へ参加する。平成22年度の実施状況は下記のとおり

①学校訪問(小中学校全16校で実施)

内容:不登校と問題行動の実態と対策等についての意見交換

②学力向上対策実践発表会 (5中学校区の発表会へ参加)

③指定研究発表会

幼・小連携(牧港小学校)

進路指導・県(浦添中学校)

キャリア教育(神森中学校)

幼稚園教育(港川幼稚園)

【成果】

◎学校訪問をすることにより、学校現場の実情と各家庭における様々な問題点を知ることができ、これからの課題が具体的な形で見えてきた。

【感想】

◎訪問前は学校現場に対して、何となくではあるが特に問題はないと思っていた。しかし訪問後は、教師が抱えている問題や社会的弱者(母子家庭)と呼ばれる家庭に経済的問題も含め多くの問題が集中していると思った。

◎学校と家庭でのコミュニケーションを持つことが、むづかしく学校現場と家庭における教育の確執があると感じた。

◎②については、何故学力が最下位なのかという(原因)をもう一度再確認し、原因追求をしない限り、学力向上対策の意味がないと思った。
(学力向上対策に対しての実践を頑張っている割には結果として現れない)

◎②と③については、学校全体を巻き込んだ目に見える形での実践活動が弱いと感じた。担当校や、担当者だけの発表会という感じがした。

◎児童生徒に関しては、教師が教育や指導をしていくが、教師に対しては教育、指導、ケアをする環境が無く、それぞれの教師が抱えている問題に対してのカウンセリングを行う環境(場所や方法)が全くと言っていいほどないと思った。将来的には教師に対しての教育の場が絶対に必要だと思ったし、また、私が想像した以上に、教師という職業はかなりハードワークだと思った。

※学校16校訪問についての感想(詳細)は、訪問終了後提出してあります。

4、学校行事への参加

入学(園)式、運動会、学芸会、卒業式への参加

【感想】

各種の学校行事に参加することで、見えてきたことがあった。それは、それぞれの学校校長の考え方、特色が学校全体の行事を通して教師、児童生徒の特徴となって現れていたような感じがした。

私の考えとしては、どの家庭、学校、企業、行政においてもリーダー(指導者)の資質はとても大事だと思う。

5、各種行事、大会等への参加

本市教育委員会、又は他の機関、団体が主催する各種行事、大会等への参加
(参加した主な行事、大会等)

- てだこ市民大学第1回入学式
- 夜間街頭指導
- 青少年を健やかに育てる浦添市民総決起大会
- てだこまつり
- 少年の船決断式、出発式、解団式
- 泉州市訪問団決断式
- 市小中陸上競技大会
- 消防出初式
- 新年祝賀会
- 成人式
- 市婦人連合会との教育懇談会
- まなびフェスタ
- 教育委員会表彰式

【感想】

各種行事、大会へ参加することによって、教育委員会の全体像が見えてきてそれぞれの組織ごとの目的や役割が解った。各々の点が線でつながり、教育委員会活動を全体で支え、遂行していると思った。まだ教育委員の期間が短かく感想しかないが、でも多くの行事に参加して、浦添市教育委員会は私が思っていたよりもはるかに素晴らしい活動を行い、実績を上げていることに大変感心した。

※少年の船及び泉州市訪問団に関しては、感想文を提出してあります。

6、その他の意見

教育委員になり半年間で感じたことは、ただ委員として静観するだけでなく、個人としてももっと学校現場に関わることができないのかと思いました。

例えば、私はこれまで違った側面(講演会やセミナーを通して)から多くの子供たちと関わってきました。

そこで感じたことは、本土の子供たちと沖縄の子供たちの格差です。それぞれに良いところもあるのですが、やはり優れた児童生徒が学ぶ学校はとて参考になることが多く、少しでも沖縄の子供たちの役に立てればと思いました。

そこであくまでも提案ですが、出来れば月に何度か学校訪問をして道徳の講義やマナーについての講義をボランティアで個人的に行うことが出来ればと思いました。

出来る人が出来ることから始めることがとても大切だと思います。言うだけではなく、何らかのアクションを起こさない限り、何も変わらないと思います。今私ができることは、実績も含めそういうことから始められればと思いました。

そしてもう一つ感じたことは、子供たちと同様に教師にも学ぶ場所(環境)が必要だと思いました。

特にモラル面やマナー(言葉遣い)に関しては子供たちより、大人の方が勉強すべきだと思います。なぜなら子供たちは大人(特に教師)の素行を見ていて、そのとおりの真似をするからです。

僭越ではありますが、私が行なっている自己啓発セミナー(参加費無料)に参加しながら一緒に学ぶことも一つの方法だと思います。

以上が半年で私が感じたことです。しかしこれから先、教育委員として多くの経験をしていくうちに、やるべきことがまた違っていくかもしれませんが、大切なことは今気付いたことをまず行動に移すことではないでしょうか。

●教育委員 平良 寛吉

平成23年4月1日付で未知の世界である教育委員会に就任以来、その環境に慣れ親しむのが精一杯で、委員会の点検や評価を論ずることはできかねます。

よって、ここでは私が実感する委員会の基本的な姿勢について述べることにいたします。まず、想定以上の多種多様な市の行事と業務に執行部並びに職員が汗をかき、ひたむきに取り組んでいる姿に心から尊敬と敬意を表します。一教育委員として何ができるか、何をなすべきかを考えたとき、使命感に燃えて業務に取り組む執行部を補佐し支えてあげるのが、教育委員としての役割ではないか、と思います。

天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かずといわれる。現教育委員会は、和を以て尊しで融和と信頼に満ち溢れ、和気藹々と何でも語り合える雰囲気であり、順風満帆で進行していると確信いたします。

教育委員会はなすべきことをしっかりやり、時として目的が果たされなくても、ひたむきにその役割と向き合う姿勢に対しては、良識ある市民と教員、保護者、地域の関係者から高い評価を得られると思います。

私立高校で経験したことですが、真に人の心を動かすのは、地位、弁舌、理屈、叱責ではなく、公平無私、誠意、実践、信頼であることを身をもって体験してきました。

教育委員は基本的に自分の持ち味、長所を徹底的に生かしながら、自分の性格に逆らわず、自然に振る舞うことが大切ではなかろうか。教育の使命感、仕事への情熱、そして説得力など、不可決の条件を備えれば、教育委員会は機能すると思います。

学校教育につきましては、教育は人なりで教育の成否の鍵は現場の教師が握っていますので、教師は教育者としての使命感をもって日々の教育活動に専念しなければなるまい。個々の教師が専門家としてもてる教育信念を発揮し、組織としての目標に向かって力を出しきれるかどうかは、まさに校長のリーダーシップに待つところが大きい。よい学校にはすぐれたリーダーと立派な教師がいる。学校長と教師を激励し、明るく楽しい学校づくり、職員の個性と能力を発揮できる職場づくりも、これまた教育委員会の努めではなかろうか。

学校づくりの中でハード面は、目に見える部分であり、予算とアイデアがあればいかようにも解決できるが、ソフト面は金だけでは解決されない。そこで集う人的集団の質やモラルをはじめ、学校の校風、伝統、教師の人間観、教育観そして地域の教育力が問われます。

浦添市は退職教員の中から、しかるべき実績を残した人材を活用し指導に当たってもらうことを考えたらどうだろうか。南城市の百人超の退職教員を中心

とした学習支援の事例があります。浦添市の現状はそうした退職教員の経験と力量を有効に活用している事例が少ないように思います。

平成二十三年九月一日記す